11. 6C6, 6D6 の誕生について

冒頭の眞空管年表を作成するに当たって、最も広く親しまれて来た筈の 6C6, 6D6 の米国における発売日を明確にした資料が中々見付からないのは一寸意外でした。

我が国での発売は資料がしっかりしていますが、本家本元の米国での資料が乏しいのはどうしたことでしょう。

6C6, 6D6 の発売時期に関する資料としては W2GK B.P.Dowd 氏が 1978 年 9 月に AWA の コンベンションで発表した論文 "Dating of the RCA (Cunningham) Composition-Base Receiving Tubes ··· from mid – 1924 ~1941(Start of WWII) " の中に ANNUAL RECEIVING TUBE RELEASES BY RCA (Cunningham) 1925~1934 という表がありまして、6C6, 6D6 及び 76 を 1934 年としています。

処が、この資料が年代推定の根拠としているのは その年の RCA Receiving Tube Manual RC12 に初めて掲載された事で、『マニュアルの出版が その年の中頃で、原稿を印刷に出すのは その何ヶ月か前で、それより前に写真を撮る ··· 』と推測しているところなど何とも覚束ない感じです。

6C6, 6D6 の発売日が今ひとつはっきり把めない時代背景として、当時米国が眞空管の技術的進歩の低迷期にあり、6C6, 6D6 も云ってみれば 57, 58 の 6.3V バージョンに過ぎず、寧ろセットメーカー側のニーズが高かったこともあって 眞空管単体としてより、これらを使った新型ラヂオのアナウンスの形でデビューしたものと見る事が出来るように思います。

この辺の事情を窺い知る事の出来る貴重な資料として、JA1CA 岡本次雄氏がご著書「アマチュアのラジオ技術史」の中で、1934 年に米国 CADETTE 社が出した二球式超小型ラジオ (6F7, 12A7) の後継機で、新型管の 6C6 を二本 (RF, Det.) と 12A7 (AF.,Rect.) とを使った "KADDTE Jewel" という小型ラジオの広告(『無線と實験』1935 年 4 月号 輸入発売元・服部時計店ラジオ部) を引用され、「この当時は 6C6, 6D6 は記事としては殆ど紹介されておらず、広告が先行した感があった。」と述べておられます。

ところで 話は一寸変わりますが、東芝の UZ6C6 と UZ6D6 は外観で判別出来るように、シャープ・カットオフの UZ6C6 はグリッドからキャップに行くリード線が真っ直ぐで、リモート・カットオフの UZ6D6 は 1 ターン巻いてあることは一般によく知られているところです。

私は、これを最初に考案し、製品に適用された当時の東芝のエンジニアのセンスの良さには惜しみない拍手を贈りたいと思うものであります。